JR西労組結成25周年・JR西日本発足30周年にむけて さらなる発展を！

二〇一六年 新春対談

西日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長　真鍋精志
西日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員長　荻山市朗

２０１６年の年明けを迎えました。今年ＪＲ西労組は結成25周年を迎え、これまでの運動を振り返り、西労組運動の継承に向けた取り組みを強化する年となります。また、ＪＲ西日本は京都博物館の開業、さらには２０１７年春のトワイライトエクスプレス瑞風の運行開始などを控え、地域との連携がますます重要となる年となります。安全を基礎に、さらなる発展に向けて、労使ともに手を携えることが強く求められます。年頭にあたり、昨年執行委員長に就任した荻山市朗中央執行委員長と真鍋精志社長が思いを熱く語り合いました。

２０１５年を振り返って

—新しい年を迎えました。昨年１年間を振り返っていかがでしたか。

荻山　北陸新幹線が金沢まで開業し、山陽新幹線も40周年を迎えるなど、意義ある印象深い１年でした。好調な経営動向の下、年末にはＪＲ西労組の一時金の支払いの要求にも応えてもらいました。いずれの職場でも、たいへん忙しく仕事にご精励いただいた組合員と、それを支える家族の皆さんに感謝申し上げます。

また、福知山線列車事故から10年が経過しました。これまでの間、働く側からも、あらためて職場からの安全確立に取り組んできました。しかし、未だに危険な事象も発生しています。しっかり検証して事故防止につなげなければならないと考えています。

真鍋　昨年を振り返ると、３月に北陸新幹線の長野～金沢間が開業し、山陽新幹線も全線開業40周年を迎えました。

また、北陸新幹線金沢開業に伴い金沢以東の北陸線が並行在来線各社に移管しました。並行在来線各社への経営移管は当社では初めてのことであり、多くの社員が並行在来線各社に出向し運行を支えていることに感謝申し上げます。

今年度は「中期経営計画２０１７」と「安全考動計画２０１７」の折り返し地点を過ぎて４年目を迎えます。４月には、これまで２年間の振り返りと今後の重点取り組みをとりまとめ、中期経営計画アップデートを公表しました。「中期経営計画２０１７」と「安全考動計画２０１７」の骨格は何ら変わるものではありませんが、一部の目標指標については上方修正することができました。これは、社員の皆さんが日々目標達成に向けた取り組みを行ってきた結果であり、感謝申し上げます。両計画は、概ね着実に進捗していると考えていますが、到達目標の達成に向けては、まだ課題もあり、引き続き様々な課題に取り組んでまいります。

福知山線列車事故から10年が経過しました。これまでも繰り返し述べてきましたが、10年という歳月は決して区切りではありません。鉄道運転事故や当社に起因する輸送障害、踏切障害事故は「安全考動計画２０１７」の進捗により減少傾向にありますが、列車に乗車されているお客様が負傷する事象や輸送障害、重大労災が発生しており、まだまだ取り組むべき課題は多いと認識しています。引き続き事故を風化させることなく、安全の取り組みに終わりはないとの強い認識のもと、全社員が一丸となって安全性の向上に取り組んでまいりたいと思います。

—昨年はＪＲ西労組の第27回定期中央本部大会で新執行部が誕生しました。

荻山　７月のＪＲ西労組大会では役員改選があり、前田委員長の後を継いで、私が新たに中央執行委員長に就任しました。先輩が築いてきた財産をさらに研き、グループ労組を含めた組合員と家族の皆さんの負託に応えられるよう、何よりも安全を基礎に、信頼いただける責任ある運動を進めていく決意です。間もなく結成25周年を迎えるこの時期に、形だけでなく、自由で民主的な責任組合としてのＪＲ西労組の理念や運動の本質をＪＲ世代にしっかりと引き継ぎ、さらに発展させていくよう努めていきます。会社にも、建設的で安定した労使関係の大切さを共有していただき、お互いに切磋琢磨して信頼を高め合っていきたいと思います。

真鍋　会社としてもＪＲ西労組と真摯な議論を積み重ね、お互いに高め合っていきたいと考えています。近年は会社にとっても、世代交代が大きな課題となっていますが、ＪＲ西労組では世代交代を進め、組合活動の担い手として多くの若手が活躍されていると聞いています。荻山委員長の新体制においても、引き続き良質な緊張感を持った労使関係を継続し、これまで築いてきた関係をさらに発展させていきたいと思います。

さらなる安全の確立にむけて

—福知山線列車事故から10年が経過しました。労使の最重要課題である安全の確立についてはどのようにお考えですか。

荻山　福知山線列車事故を絶対風化させず、安全最優先の意識をいっそう高めて取り組んでいくことは言うまでもありません。これまでの議論やアンケート調査などを踏まえ、安全対策の成果と課題を検証し、ＪＲ西労組「安全提言」を策定しました。事故防止のために自分のミスを気兼ねなく報告できているか、ルールや仕組みはあっても、職場で本当にそれが守られているのかなど、職場の課題を整理して10項目の提言にまとめています。職場に潜んだリスクを把握し、背景や原因を分析して対策を講じていくことが大切です。そのために、ＪＲ西労組が役割を果たしていかなければなりません。

真鍋　先ほども述べましたが、昨年はお客様の死亡事故につながりかねない事象や重大労災を発生させてしまいました。会社として安全管理体制が十分でなかったこと、これらの事象を引き起こしたリスク要因への対策やリスクの洗い出しが十分でなかったことを真摯に反省し、第三者機関から評価を受ける仕組みも活用するなど、安全管理体制の一層の充実に努めてまいりたいと思います。

—ＪＲ西労組「安全提言」について、具体的にはどのように活用していきたいとお考えですか。

荻山　「安全提言」に掲げられたものをはじめとする職場の様々な課題について、分会の執行委員会や安全衛生委員会などで議論し、グループや協力会社の課題も含めて、常に安全について議論し改善を進めていく運動や文化を作っていきたいと考えます。「安全考動計画２０１７」の実効性を高めるために、労使でさらに踏み込んだ議論を進めていきたいと思います。

真鍋　ＪＲ西労組からご提言をいただいた「安全提言」に含まれる内容は、まさに職場の声、課題であると認識しております。安全性向上の取組みは、会社だけの取り組みであっても組合だけの取り組みであってもその目的を達成することはできません。貴重なご提言については労使で真摯に検討し、取り入れるべきものは取り入れて、「安全考動計画２０１７」に掲げる目標の達成に向け、職場からさらに安全を作り上げていくために、ＪＲ西労組としっかりと議論を深めていきたいと思います。

ＪＲ西労組結成25周年 ＪＲ西日本発足30周年にむけて

—今年12月6日でＪＲ西労組は結成25周年を、ＪＲ西日本も来年4月1日で発足30周年を迎えます。この節目にあたっての問題意識をお聞かせ下さい。

荻山　機会ある度に申し上げていますが、安定した雇用のうえに、社会的に遜色ない賃金や労働条件を確保し、そしてなによりも、労使の信頼関係が構築されていることなど、今日ある私たちの地位や環境は、先輩が苦労して作り上げてきたものであることを再認識しなければなりません。今後も当たり前のように続くものとして受け止めるのではなく、労使が切磋琢磨していく必要があると思っています。

たいへんな雇用不安を経験した国鉄改革と、先に述べた福知山線列車事故は、ＪＲ西労組の運動の原点です。安全を基礎にＪＲ西日本グループの持続的な発展を築き、将来にわたって雇用と生活を維持、向上させることが私たちの責務だと考えています。

今年は結成25周年を迎えるにあたり、歴史に学び、今後の運動のあり方を考える取り組みを進める方針です。組合員の皆さんにも問題意識を共有し、参加いただきたいと思っています。

真鍋　平成29年４月に会社発足から30年を迎えます。当社は、これまで鉄道再生という使命を果たすため、安全や経営基盤の強化に向けて労使一体となって懸命に努力を積み重ねてきました。今日の会社は諸先輩方をはじめとする社員の皆さんが苦労して作り上げてきたものであると認識しています。

一方で、福知山線列車事故などの重大事故を発生させており、課題も残されています。そのような課題に加えて、今後は本格的な人口減少・高齢化社会の到来、経済の成熟化など、これまで経験したことのない難題に、現実の問題として対応していかなければなりません。過去の延長線上の取り組みだけは、企業としての存続すら危ういとの危機意識を持ち、エリアに即した事業を展開し、次なる成長に向けて長期的な視点に立った打ち手についても検討していきたいと思います。

—様々な問題や課題があると思いますが、とくに、労使関係についての問題意識をお聞かせください。

荻山　これまでの25年を検証する中で、労使関係の大切さについて、とくに若手の皆さんへの理解を深めたいと思っています。ＪＲ西日本の最大の財産は人であり、健全な労使関係が、安全の確立、企業の発展の基礎にあると確信しています。

ＪＲ西労組は93％を超える組織率を確保していますが、労使関係は形だけでなく実質が問われます。組合側として、会社がＪＲ西労組の意見を聞きたい、相談したい、と考えるような、頼りになるパートナーに相応しい力量も持たなければならないと考えます。チェック力や提言力を研くとともに、分会での世話役活動やコミュニケーションを充実させ、組合員から信頼される組織の求心力を高めていきたいと思います。

管理職、とくにＪＲ入社の皆さんが、国鉄改革の教訓と労使関係の大切さを理解することが大切だと思います。そして、総合職をはじめ、管理職をめざす皆さんには、職場で世話役をしたり悩みを話し合ったりして、職制ではない、仲間との本当の信頼関係を築き、お互いの助け合いの大切さなども身に着けて欲しいと思っています。このようなことは、組合活動の基本にも通じるところがあります。組合として多くの方に組合活動を経験していただき、職場の仲間との信頼関係を構築していただきたいと思います。

真鍋　会社と組合の関係は車の両輪に例えられます。組合にとって、組合員の雇用や労働条件を維持・向上させるためには会社の発展は欠かせません。一方、会社が発展するためには社員の働きがいを向上させることが必要になります。このように目的の順序は違っていてもめざすべき方向性は同じであると認識しております。私は経営の課題は現場にあると考えております。会社、組合の双方が持続的に発展していくためにも、貴組合が会社に対するチェック機能を働かせていただき、職場の意見を取りまとめて会社に対して提言を行うことは非常に有益なことと認識しています。これからも、健全な労使関係を維持していきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

当社は、国鉄の轍を二度と踏まないという決意のもとに発足しました。過去の歴史を学ぶことは歴史を繰り返さないためにも重要なことであると言えます。また、安全・安定輸送の実現のために、社員同士の信頼関係は非常に重要です。現場においても、職種、系統を越えた連携は進んできていると感じています。委員長のご指摘は、貴重なご意見として受け止めていきたいと思います。引き続き会社としても双方向のコミュニケーションとなるよう取り組んでまいります。

今後の経営展望と労使の課題について

—「中期経営計画２０１７」で各分野での経営方針が示されています。急速に変化する社会環境の中で、とくに人材に関する課題についてお考えをお聞かせください。

真鍋　長期的な見通しでは、２０４０年には自治体の半数の存続が難しくなるなどの見方も示されるなど、人口減少のもたらす経営リスクが従来以上に明確になってきています。こうした厳しい経営環境の中、地域共生企業として当社が持つ強みを活かしながら、地域の活性化と当社の持続的成長につなげていかなくてはなりません。また、お客様のご利用の減少や労働力の不足なども想定される中で、現在の鉄道オペレーションを完成形とするのではなく、より安全性が高く、省力化された鉄道オペレーションへのシステムチェンジに取り組んでいくことも必要であると考えています。

また、人口減少社会において、社員一人ひとりの力を活かすことがますます重要になってきています。仕事と育児・介護との両立については、単純な就業の継続だけが目標ではなく、その後の仕事におけるキャリア形成を見据えながら就業できることも重要であると考えています。より短時間で成果を出せる生産性の高い働き方にシフトしていくことで、全ての社員が働きやすい環境をつくり、育児・介護に携わる社員をはじめとする多様な社員に能力を最大限発揮していただくことができるようにしていきたいと思います。

荻山　少子高齢化、人口減少が進む中で、これまでの延長線上だけで将来を展望することはできません。安全を基礎に、地域との共生の下、ＪＲ西日本が社会に信頼され持続的に役割を果たし続けるために、責任組合としても積極的に議論し問題提起していかなければならないと思います。そのために、企画提案運動をさらに研いていきたいと考えています。

働き方に関して言えば、労働力不足への対応、ワーク・ライフ・バランス、とりわけ、男女平等参画や仕事と育児の両立支援の問題、シニア・シニアリーダー社員の活躍にむけた課題、人材育成と技術継承など、重要課題が山積しています。「職場のあり方提言委員会」の取り組みを通じ、グループ労組を含めて職場の意見を集約のうえ提言し、その実現をめざしていきます。

言うまでもなく、仕事の活力は家庭の充実があってこそ生まれるのであり、ワーク・ライフ・バランスの実現は企業発展の源泉です。また、女性の活躍なくしてＪＲ西日本の発展はないと考えています。制度やしくみの問題だけでなく、実態や運用などにも着目し、組合員のアイデアを結集させ、職場からの企画提案を通じ、ワーク・ライフ・バランスの先進企業をめざして取り組んでいきたいと思います。既成概念にとらわれず、知恵を出して前向きに問題提起していきたいと思います。

—中期経営計画でも強調されている「地域共生」の重要性がますます高まっていますが、いかがお考えですか。

真鍋　人口減少や少子高齢化が進む中で、いかに地域を活性化していくかは、地域の皆様にとっても当社にとっても共通の課題です。既に準備が始まっていますが、トワイライトエクスプレス瑞風の運行による、地域の観光や文化、食の情報発信機能の強化を、地域と一緒になって進めたいと思っています。どうすればその地域に最もふさわしい交通体系にできるのか、どういう交通モードを提供するのが最適なのかという点について、地域としっかりと議論をしていきたいと思います。そうした議論も含めて、地域の皆様との交流と連携を深め、当社グループ一体でエリアに即した事業を展開することにより、地域の活性化に貢献するとともに、当社グループの持続的な発展にもつなげていきたいと考えています。

荻山　地域共生、地域活性化の課題にも、責任組合として積極的に関わっていかなければならないと考えています。北陸新幹線の金沢以西の建設問題、第三セクター会社に関わる課題、地方ローカル線のあり方など、多くの課題が山積しています。ＪＲ西労組は、以前からこの問題の重要性を訴え、自治体や地方議会との懇談や提言活動など、地道な取り組みを進めてきました。そして、当時国土交通省の副大臣だった三日月滋賀県知事らの努力で、私たちが求めてきた「交通政策基本法」や「改正地域公共交通活性化再生法」が成立するなど、成熟社会の中で、地域が主体的に持続的な公共交通を築き、活性化につなげていこうという環境が整いつつあります。ＪＲ西労組は、会社とは別の社会や政治、行政とのパイプもありますから、それらの強みを活かし、企画提案していきたいと思います。

２０１６年の抱負について

—最後に、新たな２０１６年の抱負をお聞かせください。

真鍋　当社にとって、「被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み」、「安全性向上に向けた取り組み」、「変革の推進」という「経営の３本柱」を着実に推進していくという方針に変わりはありません。４月には福知山線列車事故から11年となりますが、事故を風化させず、二度とあのような事故を起こさないため、安全最優先の鉄道を築き上げるべく、全員参加で挙げて取り組んでいきたいと思います。

中期経営計画と安全考動計画は４年目を迎えます。目標達成に向けて施策を打って効果を出すためには、実質的な最終年度があり、今年が正念場であると認識しています。到達目標とのギャップを認識したうえで、着実に施策を展開していかなければなりません。目標達成のためには、一人の百歩ではなく、百人の一歩が重要であると考えています。社員の皆さんが「自分ゴト」として考動していただくことを期待しています。

４月には、京都鉄道博物館がいよいよ開業します。単に博物館の成功だけを期するだけではなく、文化拠点として梅小路地区など地域とともに発展していくことをめざしています。博物館は、楽しんでいただくと同時に、鉄道の技術や安全の仕組みについて学んでいただける場、鉄道人の精神的拠りどころともなることを目指したいと考えています。社員の皆さんにもお客様のご案内に携わるなどして、ＪＲ西日本のファンづくりに取り組んでいただきたいと思います。しっかりと開業準備を整え、万全の体制でお客様をお迎えしたいと思います。また、来年春のトワイライトエクスプレス瑞風の運行開始に向けた準備もしっかりと整えていきたいと考えています。

荻山　言うまでもなく、まず安全の確立を最重要課題に位置付け、「安全提言」の活用をはじめ、グループ労組を含めた職場からの安全を築くために、働く側の視点を大切にしてきめ細かな取り組みを進めていきます。

そして、繰り返しになりますが、今年はＪＲ西労組結成25周年を迎える節目の年です。この節目を意識した運動を進めたいと考えています。運動の理念は不変ですが、守るべきこと、変革すべきことを議論し、次代にむけて提起していきたいと思います。

４月に京都鉄道博物館が開業し、来春にはトワイライトエクスプレス瑞風の運行開始も予定されるなど、明るい話題もあります。最近は会社の社会に対する発信力が少しずつ高まってきていると評価しています。社長には、ぜひ斬新な問題提起をいただきたいと期待しています。京都鉄道博物館は、地域共生のモデルケースとして幅広い効果を生み出せるよう、私たちも積極的に協力していきたいと思います。

ＪＲ西労組は、安全を基礎に、山陽・北陸新幹線をはじめとする好調なご利用を維持、拡大できるよう最大限努めるとともに、「対立と協力」の理念に基づき、成果の配分はしっかりと求めるメリハリのある運動を進める決意です。労使で課題にしっかりと向き合い、発展を築いていきたいと思います。

司会：宮野勇馬（情宣部長）